

平成 28 年度文化庁日本語教育大会<2日目>

「日本語教育人材のキャリアパス

～現場で活躍する先輩に直接聞いてみよう！～

趣 旨：日本語教師が活躍する分野は多岐に渡ります。それぞれの現場で専門性を発揮し、活躍する日本語教育人材の皆さんに、現場で今取り組んでいることや課題、またこれまでのキャリアパスなどについて、直接お話を聞ける場を作りました。仕事として日本語教育に関わる先輩に、進路の相談や現在の課題など、直接質問をぶつけてみてください。

●スピーカー（12名の先輩）

1. 海外で教える
 - ・・・ 松尾 慎さん（国際交流基金専門家 ⇒ 大学）
2. 海外で教える
 - ・・・ 坂本 昌代さん（JICA⇒都立高校教員）
3. 就学前の子供たちに教える
 - ・・・ 本間 深雪さん（保育園園長）
4. 夜間中学で教える
 - ・・・ 都野 篤さん（墨田区立文花中学校夜間学級）
5. 外国にルーツのある子供たちに教える
 - ・・・ 栢木 典子さん, 加藤 千秋さん
（NPO法人多文化共生センター東京）
6. 就労希望者に教える
 - ・・・ 小笠原 雅子さん
（一般財団法人日本国際協力センター）
7. 技能実習生に教える
 - ・・・ 黒羽 千佳子さん
（公益財団法人国際研修協力機構）
8. 看護介護職希望者に教える
 - ・・・ 野村 愛さん（首都大学東京）
9. 日本語学校で教える
 - ・・・ 佐久間 みのりさん（横浜デザイン学院）
10. 大学で教える
 - ・・・ 石澤 徹さん（東京外国語大学大学院）
11. 高度人材に教える
 - ・・・ 大津 修さん（公益社団法人国際日本語普及協会）
12. 難民に教える
 - ・・・ 山本 さやかさん
（公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部）

※本セッションは事前申込制です。8月27日（土）大会1日目終了後に会場受付にて事前予約を受け付けます。残席がある場合、28日（日）午前9時30分から会場にて申込を受け付けます。

12人の先輩方と全3回のセッションを行います。1セッションは5名までです。

第1回:10:00～10:45

第2回:11:00～11:45

第3回:12:00～12:45

1. 海外で教える

東京女子大学

松尾 慎（まつお しん）さん

<プロフィール>

在バングラデシュ日本大使館 派遣員

JICA 日系社会青年ボランティア（ブラジル：日本語教師）

ICA 文化事業協会 メキシコ灌漑プロジェクト（現地調査兼通訳）

国際交流基金 日本語教育派遣専門家

（インドネシア：ジャカルタ日本文化センター）

（2000年～2003年）

東海大学文学院 日本語文学系教員（台湾・台中市）

2009年4月より、東京女子大学現代教養学部人間科学科言語科学専攻教員

大阪大学 言語文化研究科 博士 2003年3月



<メッセージ>

大学を卒業してから海外中心に活動してきました。その中で、国際交流基金の日本語教育派遣専門家として派遣されました。今、考えてみればこのとき、日本語教育に関わる世界で生きていく覚悟を持ったように思います。その後、日本語教育の世界に関わりながら、少しずつ世界を広げて様々な実践を行っています。先日、経済学者の浜矩子さんの講演で「人を幸せにできないなら、それは二セの経済活動です」と聞きました。「人を幸せにできないなら、それは二セの日本語教育です」と言い切れるだろうかと思わず考えてしまいました。どうぞよろしくお願いいたします。

2. 外国にルーツを持つ子供たちに教える

東京都立一橋高等学校、浅草高等学校 国語科 講師

坂本 昌代（さかもと まさよ）さん

<プロフィール>

1971年北海道生まれ。立命館大学在学中に中国へ留学。卒業後は外資系航空会社等を経て、1998年から香港の日系企業で働く。その後、中華圏だけでなく世界中の国に住んでみたいと一念発起。一旦帰国し、派遣社員をしながら養成講座で学び、JICA日系社会青年ボランティアとして南米チリで日本語教師デビューを果たす。2006年に帰国した後は、都内の日本語学校、小学校、高校等で日本語を教えながら、二子を出産。現在は、定時制高校で外国ルーツの生徒たちに“国語総合”を教えている。趣味は旅行と読書。今、興味を持っていることは多読。次に住みたい国はキューバ。



<メッセージ>

都立高校で学ぶ“外国にツールを持つ子供たち”と聞いて、皆さん、どんな生徒さんを思い浮かべますか。国籍も年齢も、そして来日のきっかけも人それぞれ。勿論、日本語のレベルだってみんな違います。そんな生徒たちを“国語総合”という枠組の中で教える場合、理想的な授業って一体どんなものでしょうか。私のこの10年間の失敗の数々を聞いていただきながら、JSL国語のあり方や、日本語教師という生き方について、皆さんと率直にお話できればと思っています。

3. 就学前の子供たちに教える

下瀬谷保育園 園長（前北上飯田保育園園長）
本間 深雪（ほんま みゆき）さん



<プロフィール>

横浜市の公立保育園の保育士として30年勤務し、横浜市の泉区北上飯田保育園に今年の3月まで4年間園長として在籍しました。この保育園は9割が外国籍のこどもたちです。日本で生まれた子もいればまったく言葉が分からないまま集団に入ってくる子もいます。「多文化保育」を園長として初めて経験し、戸惑い悩みながらも行政、地域との連携で多くのことを学べた4年間でした。

<メッセージ>

北上飯田保育園の地域はベトナム、中国、カンボジア、ラオス、等難民センターからの移住を含め多くの外国籍の方が住んでいる多文化共生地域です。子どもたちは「みんな違って当たり前、いろいろな国があり、言葉も肌の色もみな違う」が当たり前の社会で育っています。多文化の中では確かに日本語の獲得のむずかしさがありますが、子どもたちの逞しさ無限の可能性を日々感じていました。あまり類のない「多文化保育の中の子どもたちの」様々なお話しができればと思います。

4. 夜間中学校で教える

墨田区立文花中学校夜間学級
主任教諭 都野 篤（つの あつし）さん



<プロフィール>

墨田区立文花中学校夜間学級日本語学級担当
夜間学級日本語学級に約20年間、主に中国帰国者に対しての日本語教育、識字教育に携わってきました。現在も帰国2世の方が在籍するクラスを担当しています。

夜間学級は公立の中学校であり、日本語科という教員免許はありません。そのため日本語学級に赴任してから機会をとらえて日本語教育、また、語学の研修を始めました。現在も東京都夜間中学校研究会日本語班会員として研修を積んでいます。

<メッセージ>

東京都の夜間学級の日本語学級は、日本語が不自由な義務教育未修了者に対して、義務教育を受けるためのプレ教育の場として設置されています。本来、夜間学級は、十分に基礎教育を受けられなかった方々が再び学び直しをする場としてありますが、なお且つ日本語学級には、生活者に対する日本語教育が、ただちに結果が求められ、学習者が教室から一歩出れば、即座に家族の生活を維持していくという厳しい現実的な側面があります。

5. 外国にルーツのある子供たちに教える

NPO法人多文化共生センター東京
梶木 典子（はげき のりこ）さん



<プロフィール>

長野県松本市出身。小学校教師を務めたのち、多文化共生センター東京の活動に参加。2006年より7年間、「たぶんかフリースクール」で日本語や教科を担当し、学齢超過の子どもたちと触れ合いながら、高校進学をサポートする。2013年より理事、事務局スタッフ。2015年4月より代表理事。外国にルーツをもつ子どもたちもふくめ、多様な個性をもつ子どもたちと出会い、学ぶことの多いたくさんの時間と元気をもらってきました。

<メッセージ>

NPO法人多文化共生センター東京は、制度の狭間に置かれ学ぶ場のない学齢を超えた外国にルーツを持つ子どもたちの学びを保障するため「たぶんかフリースクール」を運営しています。フリースクールでは、日本語や教科の学習支援を行い進学のサポートも行っています。卒業生は450人に上り、多様な文化的背景を持つ個性豊かな子どもたちが学んでいます。日本語や教科の指導は、試行錯誤しつつ積み重ねていますが課題も多くあります。子どもたちの学びへの思いやさまざまな姿をセンターでの実践を通してお伝えし、外国にルーツを持つ子どもたちの学びについて共に考える場になればと願っています。

NPO法人多文化共生センター東京
加藤 千秋（かとう ちあき）さん



<プロフィール>

京都出身。一般企業退職後、児童英語講師を経て、ボランティアで日本語を留学生や主婦に教え始めた事をきっかけに、日本語教師養成講座で教授法を学ぶ。外国人集住地域の小学校で日本語補習教室などに関わった後、2008年より「たぶんかフリースクール（荒川本校）」で英語、日本語を担当し、2013年より「たぶんかフリースクール・新宿校」へ異動。2015年より理事。「たぶんかフリースクール」では、15歳～18歳位の学齢超過で、学ぶ場がなく、高校へ行きたいという子どもたちを半年～1年で日本語習得から高校進学まで支援している。

<メッセージ>

外国にルーツのある子どもと関わる事は、その子どもを取り巻く家庭環境、経済状況、教科学習の困難さ、受験制度などの現実にも向き合う事にもなります。日本語教育と言っても、言葉だけの問題ではなく、解決できない多くの壁があります。しかしながら、その壁に立ち向かう強さ、明るさ、優しさなど、子どもたちから教わることの方が多いと感じる日々です。さまざまな専門的な観点を持った方々と連携し、支援のネットワークを通して状況が好転していけばと思います。「日本に来て良かった。」と一人でも多くの子どもに感じてもらえたらと願っています。

6. 就労希望者に教える

一般財団法人日本国際協力センター 研修事業部
日本語主任講師
小笠原 雅子（おがさわら まさこ）さん



<プロフィール>

中学時代にアメリカからの留学生に出会ったことから日本語教師という職業に関心を持ち始め、大学で日本語学を専攻し、日本語教師になりました。主に国内の大学等への進学を希望する留学生に対する日本語教育に携わっておりましたが、現在は、日本での安定就労を希望する定住外国人に対する日本語教育及び関連業務を担当しております。

<メッセージ>

初めて教壇に立った日から、試行錯誤を繰り返し、行き詰まり、悩みながらも、御縁のあった学習者やメンター、同僚のおかげで、やりがいのある日本語教師生活を送っております。今回、一日本語教師としての経験などについてお聞きいただき、何かしらお役に立てましたら幸いです。どうぞよろしくお願い致します。

7. 技能実習生に教える

公益財団法人国際研修協力機構（JITCO）
能力開発部 援助課 専門役
黒羽 千佳子（くろは ちかこ）さん



<プロフィール>

高等学校国語科教諭（愛知県）を経て以前から興味があった日本語教育へ。
東京外国語大学日本語学科卒業後、同大学院博士前期課程（日本専攻）修了。
国際交流基金派遣日本語教育専門家（ブカレスト大学（ルーマニア）、ローマ日本文化会館（イタリア））。
海外技術者研修協会（AOTS 現 HIDA）にて EPA 看護師候補生向け教材開発に携わる。
日本大学国際課非常勤講師、リーマンブラザーズ証券株式会社社内研修講師等を経て現職。
技能実習生の日本語指導員対象のセミナー等の実施やインターネットでの教材提供等に関わる。

<メッセージ>

外国で暮らしてみたい、そのためには日本語教師だと思ったのが出発点です。実際に外国で生活した際の、何が聞けて何が言えて、何が読み書きできたら役立つかといった具体的体験の自己観察は、技能実習生にとって「異国」である日本での言語生活を考える今の仕事にも役立っています。

技能実習生への日本語指導は、全国の「監理団体」が主に行いますが、日本語教育のバックグラウンドのない人が担当している場合が多いのが現状なので、日本語教育の知識やスキルを活かして日本語を指導しながら、技能実習生の生活全般に関わることに興味のある方には、「監理団体」は魅力的な上に歓迎される職場のひとつだと思います。

8. 看護・介護職希望者に教える

首都大学東京 健康福祉学部 特任助教
野村 愛 (のむら あい) さん



<プロフィール>

大学でフィリピン語を専攻し、日本語教育のゼミに所属。2001年より外国人技術研修生の受入機関にて、フィリピン人研修生に日本語を教える。2004年に大学院に進学し、在学中にフィリピンに留学。国際交流基金マニラ事務所にて、日本語教師研修のアシスタントを務める。2007年より船会社に入社し、マニラにて、船員、酪農研修生、ケアギバーに日本語を教える。2011年より社会福祉法人に入職し、EPAに基づき来日した介護福祉士候補者の育成を担当する。現在は、首都大学東京において、介護福祉士候補者を対象とした日本語研修を担当している。

<メッセージ>

私は、2005年に『介護の日本語』というテキスト作成に協力したことをきっかけに、介護の日本語教育に興味を抱くようになりました。それから現在まで、企業、介護施設、大学等のさまざまな組織に所属し、介護の日本語教育に関わってきました。介護の日本語を教える他に、静岡県発行『やさしい日本語版 介護福祉士新カリキュラムワークブック』『チュウタのWeb辞書(介護)』の作成にも関わりました。大会当日は、介護の日本語教育に関心のある方々に、外国人介護人材への日本語教育や教材などについてご紹介すると共に、介護現場での外国人介護人材の活躍についてもお話ししたいと思います。

9. 日本語学校で教える

横浜デザイン学院 教務主任
佐久間 みのりさん



<プロフィール>

文教大学文学部日本語日本文学科卒業。在学中は、北京大学や夜間日本語講座などで日本語教育の実習を重ねる。卒業後横浜デザイン学院日本語学科の非常勤講師として入職、専任講師を経て、現在同学校日本語学科教務主任。日本語教師として現在も初級～上級クラスの教壇に立つかわら、同学校の日本語教師短期実習コース講師、日本語教師向け勉強会の企画や日本語教育振興協会主催の日本語学校教育研究大会委員も務めている。日本語プロフィシエンシー研究第2号(2014年凡人社)に書評『『できる日本語』を通じた日本語学校における教室活動の再考-プロフィシエンシーを重視した日本語教育現場の新たな可能性-』を寄稿。

<メッセージ>

私は高校生の時に日本語教師という仕事を知り、大学で日本語教育を専攻しました。大学在学中、国内外の日本語教育現場で実習に立ち、日本語教師になりたいという思いを抱いて現在の学校で日本語教師として働き始めました。日本語学校の学生は国籍も年齢もレベルも学習動機も目的もバラバラで、まるで小さな世界のようなです。日々、教えること以上に教えられることもたくさんあります。日本語教師としての生活、これまでの歩み、海外出張で見た海外の日本語学習者のこと、学校の行事や授業の様子、スピーチコンテスト、個性的な学生のこと…、色々お話しできたらと思っています。

10. 大学で教える

東京外国語大学大学院国際日本学研究院
石澤 徹 (いしざわ とおる) さん



<プロフィール>

○専門

日本語教育学、第二言語習得研究、音声学・音韻論

○略歴

広島大学教育学部、広島大学大学院教育学研究科修了。博士（教育学）。
学生時代はボランティア日本語教室に従事。これまで、日本語学校や大学等で非常勤講師として日本語や日本事情科目を担当。2012年より山口福祉文化大学（現・至誠館大学）にて専任講師。2014年より現職。現在は、留学生日本語教育センターにて国費学部進学留学生予備教育プログラムを担当するとともに、大学院にて日本語教育関連科目を担当。
最近の関心領域は、第二言語としての日本語音声の知覚、日本語科目と専門科目のアーティキュレーションの方法論、語彙習得における学習者特性の影響。

<メッセージ>

日本語教育の仕事は、人との出逢いの連続です。学習者の皆さんとの出逢いはもちろん、日本語教育にかかわる様々な方々からお話を伺うことで、自分の外に広がっている大きな世界に、新しいドアを開けて一歩踏み出す、まさにそんなイメージのお仕事だと感じています。
私自身、まだまだ駆け出しのひよっこなので、たいへん僣越ですが、皆さんの船出に少しでも関わられるのであれば、少し先に船出をした者として大変うれしく思います。どうぞお気軽にお立ち寄りください。

11. 高度人材に教える

公益社団法人国際日本語普及協会 講師
大津 修 (おおつ おさむ) さん



<プロフィール>

兵庫県出身。大手商社勤務の後、公益社団法人国際日本語普及協会（AJALT）にて日本語教育に携わっている。これまで教えてきた対象は、ビジネスパーソン、外交官、難民、留学生など。特に、仕事の経験を活かし、幅広い分野への対応が要求されるビジネスパーソンや外交官への日本語教育を数多く担当している。

<メッセージ>

日本経済がグローバル化する中で、多くの外国企業の日本市場でのビジネスの展開のために派遣されて来る外国人社員が増加しているだけでなく、日本企業も外国人社員の採用を増やしています。そういった外国人社員の日本語に関するニーズは様々です。中には、日本人と同様に日本語で仕事をこなすことを期待されている外国人社員も数多くいます。学習者によって異なる多様なニーズに柔軟に対応することが求められています。時には学習者の専門分野に入り込む必要があることもあり、奮闘中です。多くの外国人ビジネスパーソンが円滑に仕事を出来るようになり、日本のファンとなるようにお手伝いをしたいと思っています。

12. 難民に教える

(公財) アジア福祉教育財団 難民事業本部
R H Q 支援センター 日本語教育相談員
山本 さやか (やまもと さやか) さん



<プロフィール>

一般企業にて勤務の後、公益社団法人国際日本語普及協会 (AJALT) にて日本語を教え始める。これまで教えてきた対象は、ビジネスパーソン、年少者、就学生、留学生、外交官、難民など。大学院の修士課程では、研究のフィールドを夜間中学に据え、教員との協働による日本語教育実践を行い、日本語教育の奥深さを改めて実感。2011年10月から現職。日本語教師と難民向け日本語教育相談員の二足の草鞋 (わらじ) で奮闘中。

<メッセージ>

「難民」と聞いてどのようなイメージをお持ちでしょうか。他の国のことのような遠い存在？日本にはインドシナ難民、条約難民、第三国定住難民の3つのカテゴリーに属する難民の方々があります。実は皆さんの身近なところに地域住民の一員として暮らしているかもしれません。私が今関わっている難民の方々に対する日本語教育プログラムの様子を中心に「難民に教えるってどういうこと？」についてお伝えしたいと思っています。